

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 1日現在

機関番号：13801

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009年度～2011年度

課題番号：21730343

研究課題名（和文） 店頭購買における輸入食品及び国産食品の価格と購入率に関する研究

研究課題名（英文） A study in over-the-counter purchase imported food and food prices and purchase rate

研究代表者

朝日 弓未 (ASAHI YUMI)

静岡大学・工学部・准教授

研究者番号：40453823

研究成果の概要（和文）：本研究では首都圏在住の主婦を対象とした質問紙調査とインタビュー調査から、輸入野菜に比べて割高な国産野菜を購入する消費者像を分析した。その結果、野菜の品質を重視し、安全性に関心が高い人ほど国産志向が強く、調理における簡便性を重視する人ほど国産志向が弱いことがわかった。また、価格を重視するかしらないかは国産志向に直接影響はないものの、若年・中年層において購入時に価格が強く気にされていることがわかった。また品目それぞれの野菜について国産受容価格回答してもらった結果と購買データから平均受容価格を算出し、その価格までなら購入する人を受容者とし、価格と受容者の割合の関係を年代や子供の有無、世帯人数別に比較しその違いを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In Japan, the production of vegetables has fallen from the latter half of the 1980's because of decreasing of agriculture workers. On the other hand, the amount of imported vegetable has increased, because the price of imported vegetables is cheap and the stable supply of them is possible. However, in recent years, the consumers have become increasingly aware of problem related to safety of food like chemical levels in imported vegetables, therefore, needs of domestic vegetable have risen. This paper analyzed purchasing behaviors of domestic vegetables and imported vegetables through two questionnaire surveys in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・商学

キーワード：消費者行動，購買意思決定

1. 研究開始当初の背景

店頭における購買過程の研究は、ブランド内での商品選択にターゲットをおいたものが多く他社ブランドと比較した店舗内での配列やパッケージなどへの応用を行って

るものがほとんどである。しかし、本研究では、対象商品を国産食品と競合関係にある輸入食品に絞ることで消費者のもつ価格感や国外の食品に対する安全感などの違いが比較できると考えた。価格感については消費者

がもつ世帯ごとの経済感が反映されひとつの指標とすることができないのではないかと推測した。

2. 研究の目的

本研究では、店頭で取られたアンケート調査及び POS データから消費者の輸入食品及び国産食品購買時の意思決定過程における選択基準を明らかにし、輸入食品と国産食品の価格と購入率の関係を導き出しモデルの構築を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) アンケート調査の実施及び ID 付き POS データの収集

アンケート調査は、東京都内にある某 N スーパーマーケットにおいて 2009 年 7 月～2012 年 1 月（毎月 1 回）主婦 20 名程度を対象に店舗内面接調査を行なった。予備調査として 2009 年 4 月に学生を対象とした店舗内面接調査を試みた。

調査対象食品として国産食品と輸入食品があるものとした。

(2) 購買過程に影響を及ぼすと考えられる要因の解明

消費者の店頭購買行動調査及び消費者の意識に対する調査から食品購買過程に影響を及ぼすと考えられる要因の解明を行った。得られたデータは、多変量解析を用い変数間の関係について検討した。また輸入品と国産品の価格についてその価格までなら購入する人を受容者とし、価格と受容者の割合の関係を年代や子供の有無、世帯人数別に比較した。

4. 研究成果

(1) 受容価格について

本研究での受容価格とは、「消費者がこれよりも高いと品質を考慮しても高いと感じる価格」と定義した。これは内的参照価格のひとつで留保価格や最高受容価格とも呼ばれる。生鮮野菜が必要不可欠な食材であること、また、頻繁に購入され消費者になじみがある商品であることから消費者が野菜購入時によく用いる内的参照価格は受容価格と考え、生鮮野菜 9 品目について調査を行った。「いくらなら国産野菜を購入するか」という質問に対して、回答してもらった 6 段階の選択肢は調査時のそれぞれの国産野菜と輸入野菜の価格帯をもとに設定した。調査対象者が実際に購入した野菜については POS データから照合した。

9 品目それぞれの野菜について国産受容価格回答してもらった結果から平均受容価格を算出し、その価格までなら購入する人を受容者とし、価格と受容者の割合の関係を年代や子供の有無、世帯人数別に比較した。年代

別の価格と受容者の割合結果を図 1 に示す。

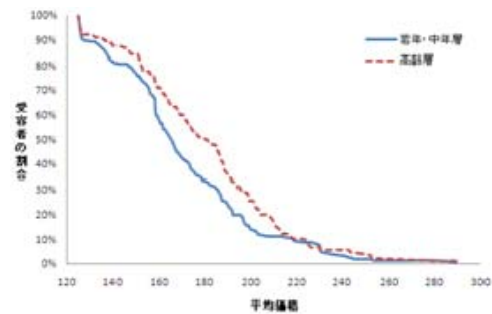


図 1. 年代別の価格と受容者の割合

図 1 をみると若年・中年層よりも高齢層の方が高価格で受容し実際に購買する人の割合が高く、受容者の減少の度合いが小さくならだかに推移している。

(2) 国産志向に影響を与える消費者意識の分析

価格の安い輸入野菜ではなく、国産野菜を選択する行動の背後にある国産志向に影響を与える消費者意識を明らかにするために質問紙調査の結果をもとに共分散構造分析を行った。分析に用いたモデルを図 2 に、分析結果を示す。モデルの適合度は GFI=0.900, AGFI=0.870, RMSEA=0.039 となった。品質を重視し安全性への関心が高いほど国産志向が強いことがわかった。また逆に簡便化志向の意識が強いほど国産志向が弱まることわかった。食や農業への関心や価格重視、付加価値重視、食事バランスから国産志向へのパスは有意とならなかった。

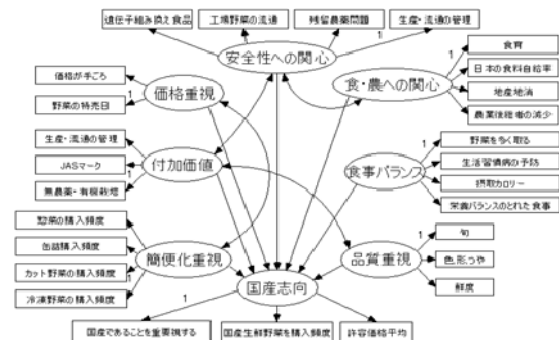


図 2. 国産志向モデル

(3) 輸入食品と国産食品の価格と購入率モデル

消費者が野菜購入時によく用いる内的参照価格を受容価格と捉え、生鮮野菜 9 品目について購買データとの関係をモデル化した。

しかし、2011 年 3 月に起こった震災（福島原発）の影響で国産野菜に対する消費者の不信感が高まり購買行動に違いが見られた。そのためモデルの妥当性の検証ができなくなった。今後の課題として当初の日程とは異なる形で行わなくてはならなくなった価格と購入率の関係については、妥当性の検証まで

行うことを検討している。

本研究では首都圏在住の主婦を対象とした質問紙調査とインタビュー調査、POS データから、輸入野菜に比べて割高な国産野菜を購入する消費者像を分析した。その結果、野菜の品質を重視し、安全性に関心が高い人ほど国産志向が強く、調理における簡便性を重視する人ほど国産志向が弱いことがわかった。また、価格を重視するかしらないかは国産志向に直接影響はないものの、若年・中年層において購入時に価格が強く気にされていることがわかった。また若年・中年層よりも高齢層の方が高価格で受容し実際に購買に結びつく割合が高いことが分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 久松俊道, 朝日弓未, 山口俊和 (2012). ドラッグストアの ID 付 POS データを用いた日用品購買パターンの比較分析 オペレーションズ・リサーチ, Vol. 57, No. 2, 13-19. (査読有)
- ② Y. Asahi (2011). Analysis of the Determinants of Purchasing Vegetables, Proceedings of the 2011 International Conference on Asia Pacific Business Innovation & Technology Management, 133(1-8). (査読有)
- ③ H. Kamienoo, Y. Asahi and T. Yamaguchi (2010). Consumer's Purchasing and Preference Consideration to Organically-grown Vegetables, Proceedings of the 10th Annual Hawaii International Conference on Business, 161-172. (査読有)
- ④ S. Izumil, Y. Asahi and T. Yamaguchi (2010). Analysis of the Determinants of Purchasing Domestic Vegetables, Proceedings of the 10th Annual Hawaii International Conference on Business, 88-97. (査読有)
- ⑤ T. Namatame, Y. Asahi, N. Motoyoshi and Y. Saito (2009). Analysis of Contract Price in a B2B Automobile Auction. The international journal of Industrial Engineering & Management Systems, Vol. 8, No. 4, 201-212. (査読有)

[学会発表] (計 14 件)

- ① 出江聡子, 朝日弓未, 山口俊和 (2011. 9. 15). 国産野菜の受容価格に影響を与える要因の分析 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2011 年秋季研究発表会

アブストラクト集, 90-91, 甲南大学 岡本キャンパス.

- ② 久松俊道, 朝日弓未, 山口俊和 (2011. 9. 15). ドラッグストアにおける日用品購買パターン分析 —顧客の世代別および来店回数別の比較— 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2011 年秋季研究発表会アブストラクト集, 88-89, 甲南大学 岡本キャンパス.
- ③ 佐藤翔太, 朝日弓未, 山口俊和 (2011. 9. 15). 広告媒体接触パターン別消費者特性の分析 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2011 年秋季研究発表会アブストラクト集, 86-87, 甲南大学 岡本キャンパス.
- ④ 佐藤翔太, 朝日弓未, 山口俊和 (2011. 9. 12). 広告媒体接触パターンと消費者特性の関係性分析 日本行動計量学会第 39 回発表論文抄録集, 65-66, 岡山理科大学.
- ⑤ 上醉尾光, 朝日弓未, 山口俊和 (2011. 9. 12). 有機野菜に対する消費者の購買行動分析 日本行動計量学会第 39 回発表論文抄録集, 59-60, 岡山理科大学.
- ⑥ 出江聡子, 朝日弓未, 山口俊和 (2011. 9. 12). 生鮮野菜の購入決定に関わる要因分析 日本行動計量学会第 39 回発表論文抄録集, 57-58, 岡山理科大学.
- ⑦ 園原花菜, 朝日弓未, 山口俊和 (2010. 9. 17). 自由記述文章に基づいたブランドエクイティモデルに関する研究 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2010 年秋季研究発表会アブストラクト集, 150-151, コラッセふくしま.
- ⑧ 上醉尾光, 朝日弓未, 山口俊和 (2010. 9. 17). 有機野菜の購買行動における消費者意識の分析 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2010 年秋季研究発表会アブストラクト集, 148-149, コラッセふくしま.
- ⑨ 出江聡子, 朝日弓未, 山口俊和 (2010. 9. 16). 国産生鮮野菜の許容価格に影響を与える消費者意識の分析 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2010 年秋季研究発表会アブストラクト集, 142-143, コラッセふくしま.
- ⑩ Y. Asahi (2009. 12. 10). The extraction of the potentiality growth customer to the use change of the credit card, Proceedings of 3rd International Conference on Operations and Supply Chain Management, AIMST University, Malaysia.
- ⑪ 園原花菜, 朝日弓未, 山口俊和 (2009. 9. 10). ケラーのブランドエクイティモデルに基づく街のブランド評価—学生の買い物を対象とした分析— 日本オペ

ーションズ・リサーチ学会 2009 年秋季研究発表会アブストラクト集, 209-210, 長崎大学 文教キャンパス.

- ⑫ 大上進也, 本吉夏樹, 朝日弓未, 生田目崇 (2009. 9. 10). 世帯の食卓スタイルに合わせた新規メニュー提示のための分析フレームワークの提案 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2009 年秋季研究発表会アブストラクト集, 207-208, 長崎大学 文教キャンパス.
- ⑬ 石田桂之, 朝日弓未, 山口俊和 (2009. 9. 10). 家庭内の夕食における中食の規定要因の分析—年中行事における惣菜売場でのメニューレコメンドの提案— 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2009 年秋季研究発表会アブストラクト集, 201-202, 長崎大学 文教キャンパス.
- ⑭ 吉田元気, 朝日弓未, 山口俊和 (2009. 9. 10). 食事バランスと食品購入方法に関する分析 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2009 年秋季研究発表会アブストラクト集, 199-200, 長崎大学 文教キャンパス.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝日 弓未 (ASAHI YUMI)
静岡大学・工学部・准教授
研究者番号: 40453823

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: